

研究開発部門 第三研究ユニット(旧JEDIセンター) スパコンによるロケット開発最前線!

◆スパコンってなに?

みなさんの中には家でパソコンを使って文章を書いたり、インターネットで調べ物をしている人も多いでしょう。スーパーコンピュータ(スパコン)もパソコンも同じコンピュータの仲間ですが、スパコンは学校の体育館ほどの建物に設置されるぐらい大きなコンピュータです。そして何よりもパソコンと比べると非常に計算が速いことが特徴です。例えば、パソコンでは7年もかかってしまうような計算を1日で終わらせることができます!また、パソコンの計算速度を人が歩く速さに例えると、スパコンの速さは宇宙に飛び立つロケットと同じくらいになります。スーパーコンピュータがどれだけ「スーパー」なのかおわかりいただけるでしょうか。

相模原キャンパスではこのスパコンを使って、これから紹介する4つのテーマに取り組んでいます。これらはすべてJAXAにとって必要であり、新しい技術やアイデアが必要とされる難しいテーマです。

◆なぜシミュレーションなの?

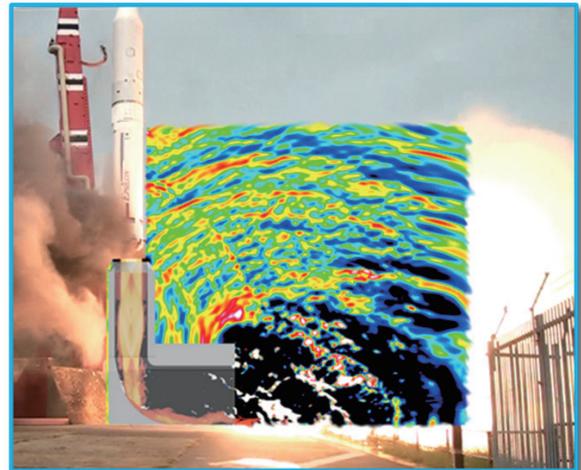
人工衛星やロケットの開発をする時、本物の人工衛星を宇宙に運んで試験をしたり、ロケットを試しに何度も打上げるといったことは、そう簡単にはできません。そのため、車や飛行機などと比べて宇宙機の開発は、とても難しく時間のかかることでした。しかし、スパコンの性能が著しく向上し、数値シミュレーション技術が高度になったおかげで、宇宙を飛ぶ人工衛星やロケットの打上げをスパコンを使って再現・シミュレーションすることができるようになってきました。実際にものを作らずにコンピュータの中で試験ができるシミュレーション技術に多くの期待が向けられています。

◆第三研究ユニットって?

研究開発部門 第三研究ユニット(旧JEDIセンター)では、シミュレーション技術を使って新しいロケットや人工衛星などの宇宙機の研究と開発を行っています。例えば、ロケットが発生する大きな音やエンジン内の燃焼ガスの流れなどをコンピュータの中で再現する技術の研究・開発を行っています。シミュレーション技術を使うと、再現結果を詳しく観察して未知の現象を明らかにしたり、限界はありますが未来に起こる事を予測することが出来ます。JEDIにはこの技術の専門家が集まっていて、スパコンを使って宇宙開発の新しい可能性に挑戦しています。

◆ロケット打上げのすさまじい音から人工衛星を守る!

ロケットの打上げをテレビで見ていると、たくさんのジェットをエンジンから吹き出しながら、「ゴー」というすさまじい音とともに大空へと高く高く登っていきます。

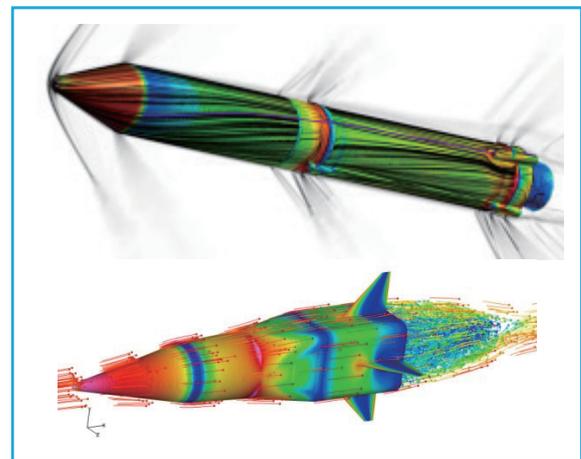


▲イプシロンロケット打上げ時の音の様子

この「ゴー」というすさまじい音はどのぐらい大きいかというと、家にある音楽を聞くためのコンポを、なんと2500万個も並べたぐらい大きなエネルギーを持っています!テレビで見ていると迫力があり格好良いですが、ロケットに乗っている人工衛星にとってはあまりにも音が大きすぎ、壊れてしまうほどの危険なばく音です。そのため、ロケットを開発する時はこの音がどれほど大きいのかということや予測したり、この音を小さくするための方策を考えることが大切です。

これまでは、40年ほど前にNASAで作られた方法を使ってばく音の大きさを予測してきました。当時はロケットのばく音がどのように発生するのかということがまだ分かっておらず、精度よく音の大きさを予測することは難しいことでした。40年後の現在、私たちは最新のスパコンと高度な数値シミュレーションを使って打ち上がるロケットからどのようにばく音が出てくるのか、その大きさはどのぐらいかという問題に挑戦しています。さらに、音を小さくする方法にも取り組んでいます。

これらの技術はH-IIBロケット・イプシロンロケットの打上げ施設の開発に使われてきました。現在は新型基幹ロケットの開発に向けて適用されています。



▲イプシロンロケット(上)と再使用観測ロケット(下)の飛行シミュレーション



ロケットエンジン(噴射機1本)の燃焼シミュレーション例 -温度分布-

◆ 新しいシミュレーションで新しいロケットを作る

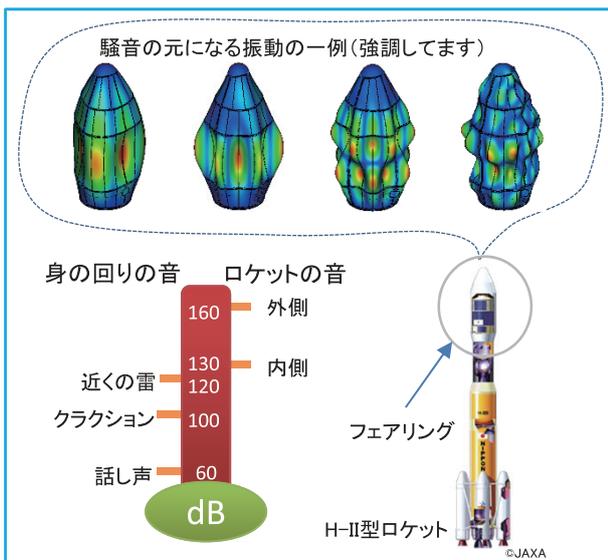
JAXAでは、近い将来に打上げる新しいロケットの開発を進めています。ロケットを作るために実験をしたり、スパコンを使ったシミュレーションを行っています。しかし物理現象に忠実なシミュレーションは、専門的な知識が必要であり、とても時間がかかるものです。JEDIではシミュレーションをもっとたくさんの人に様々な場面で使ってもらえるよう、より使いやすい新しいシミュレーション方法を研究し、実用化を目指しています。新しいシミュレーションを使って、新しいロケットをより効率的に、早く、そして正しく作るお手伝いをしています。

◆ 騒音を防ぐ軽くて強いフェアリングを作る

ロケットの先端部分をフェアリングと呼びます。フェアリングには、中に載せている人工衛星を外側の騒音から守るという重要な役割があります。

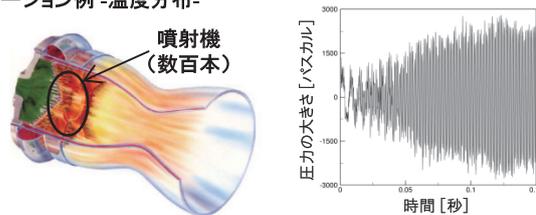
ロケットの外側の騒音は、時として160dB(デシベル)以上になりフェアリングを大きく振動させます。この振動が原因でロケットの内側では、近くで聞かす雷よりも大きな音がしています。

JAXAでは、現在次の新しいロケットに向けて、軽くて強く音が静かなフェアリングのコンピュータシミュレーションを行っています。静かなロケットがあれば、今よりもっと精密で高性能な人工衛星を打ち上げることが出来ます。



▲音と振動の計算

◆ エンジン内で炎をうまく燃やせ！！ ～炎と音のふしぎな関係～



ロケット実機の燃焼器

音の増え方を予測
水素と酸素の炎の乱れや圧力
の変化を詳しく調査

▲炎と音の振動のシミュレーション

ロケットを打ち上げる時に、ノズルから吹き出る炎は、エンジンの中のたくさんの小さな炎(理科の実験で使うガスバーナと似ています)が集まってできています。普通は安定して静かに燃えています。何かのきっかけで、エンジン内の炎がフラフラと揺れてしまうことがあります。そのまま静かな安定した燃え方に戻りますが、炎がどんどん揺れていき、最後には炎が直接エンジン内の壁に触れて、金属の壁が溶けてしまうこともあります。こうなると最悪エンジンは爆発し、ロケットの打ち上げは失敗してしまいます。

どうしてこのようなことが起きるのでしょうか？炎が揺れながら燃えると大きな音が出ます。この音がエンジンの壁で反射し、条件がそろうとさらに大きく炎を揺らせてしまうようなのです。でも、はっきりとした理由を知っている人は世界中でまだ誰もいません。JAXAのスパコンはとても速くたくさんの計算をすることができるので、炎の燃え方や音が発生する様子を計算して調べることができます。

ロケットのエンジンを作る前にコンピュータを使って、エンジンの中の炎全てがどう燃えるかを知ることができれば、その後のテストや改良をする時間や費用を大幅に減らすことができるはず。この様になることをわたしたちは目標にしています。

◆関係者から一言



ユニット長の嶋です。スパコンは10年で1000倍のペースで速くなり、それを用いて物理現象を忠実に再現する数値シミュレーションも急速に発達しています。飛行機や自動車、さまざまな電気製品や携帯など、今や「ものづくり」には、この技術が設計や開発に欠かすことのできない道具となっています。信頼性が大切で保守的になりがちな宇宙開発では、その導入が遅れていましたが今やっと活用の時代に入ってきています。世界トップクラスのスパコンと研究者集団の知恵を駆使することで日本の宇宙開発をさらに信頼されるものに変えていく仕事をしています。

◆もっと詳しく知りたい人のために

<http://stage.tkscc.jaxa.jp/jedi/>

(5-4) スパコンによるロケット開発最前線！